

# 平成23年度第1回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化部文化振興課

## 1 日 時

平成23年7月11日（月） 午後2時～午後4時30分

## 2 開催場所

千葉中央コミュニティセンター8階 会議室「千鳥・海鷗」

## 3 出席者

- （委員） 神野委員、早川委員、石丸委員、関委員、瀬崎委員、  
田代委員、能美委員、廣崎委員、富士崎委員、松本委員  
（事務局） 市民局長、生活文化部長、文化振興課長、文化振興課長補佐、  
文化振興班主査、主任主事2名

## 4 議 題

- （1）「千葉市文化芸術振興計画 進捗状況」について  
（平成22年度実施状況、平成23年度実施計画）  
（2）「千葉市文化施設等に係る市民ニーズ・利用実態調査」について  
（3）その他

## 5 議事の概要

- （1）「千葉市文化芸術振興計画 進捗状況」について  
（平成22年度実施状況、平成23年度実施計画）  
千葉市文化芸術振興計画の平成22年度の実施状況及び23年度の実施計画について報告し、  
23年度以降の重点項目を中心に、施策について意見交換を行った。  
（2）「千葉市文化施設等に係る市民ニーズ・利用実態調査」について  
平成22年度に実施した「千葉市文化施設等に係る市民ニーズ・利用実態調査」の概要につ  
いて報告し、調査結果に基づく今後の文化振興施策のあり方について意見交換を行った。

## 6 会議経過

### 【委員長（神野委員）】

委員長の神野と申します。よろしくお願いたします。

震災、原発の問題。私たちがこれほどリアルに自分たちの生活や命の問題を考えさせられることはな

かったのではないかと思います。戦前世代であれば、戦争というものが、自分たちの命について、これからどうやって生きていくのかを考えるきっかけになったと思いますが、私たち戦後世代は、繁栄の中だんだんよくなっていくという前提のもと、言い方は悪いですが、あまり危機感を持たずに楽しいことを消費していくような日々だったように思います。もちろん、その中で、みなさん、努力し、前向きに生きようとしてこられたと思いますが、今回、本当に想像を絶する出来事が私たちに降りかかり、それが現在進行形であるということを経験させられているわけです。そういう中で一番大事になってくるのは、私たち自身がどのような生活を望み、どのように生きていくのか、お互いに語り合いながら、同じ体験をしつつ、どのような社会にしていくのかということイメージしながら、一緒に取り組んで共同体を作っていく。そういうことが日本全国で求められている気がします。

私たちは千葉市の文化振興について考え、提言をしていくという重要な役割を仰せつかっています。私たちがどのように豊かに生きていくのかということに関して、芸術がどのような役割を果たしうるのかということも、今まで以上に重い問題として、そしてポジティブにとらえながら、それを実現できる環境を整えていくことに力を発揮できるような場にできればと思います。本日はよろしく願いいたします。

それでは次第に沿って議事を進めてまいりたいと思います。

まず、議題1の「千葉市文化芸術振興計画」についてですが、事務局の方から進捗状況などについて説明をお願いできればと思います。

#### 【事務局】

文化振興課長の森川です。それでは座って説明させていただきます。

お手元にございます資料1「千葉市文化芸術振興計画の概要」をお願いいたします。1は計画策定の背景でございます。2つめ、施策の体系でございます。3つめは計画の推進ですが、この振興計画は平成20年度から27年度までの8年間の計画でございますが、23年度、本年度からは、身近な文化芸術活動への参加促進を図っていくことが位置づけられております。

上に戻りまして、「2 施策の体系」をご覧ください。5つの基本施策を柱に、それぞれ2つから4つの基本施策、そして右側に具体的な基本事業を①から③と振ってございます。そのうち、網掛けの基本事業は、昨年度の当会議でご審議いただき、23年度から3年間の重点項目として設定したものでございます。

次に、資料2「千葉市文化芸術振興計画 年次報告書」をご覧ください。各所管課が実施している文化芸術関連の事業について、平成22年度実施状況と23年度実施計画を、施策の体系ごとに整理したものでございます。去る5月13日に開催した、庁内の関係部課長で構成する「文化行政推進会議」におきまして、承認された内容でございます。なお、事前にお送りしました資料より、新たに3事業を追加しましたので、本日お配りしましたものをご覧くださいと思います。

まず、表の見方ですが、左上には基本施策名と施策の方向を記載し、また、No. 欄の隣には基本事業を①、②と表記してあります。そして、表の真ん中には、平成22年度の実施状況と23年度の実施計画、またその隣に22年度決算額と23年度予算額があり、一番右端には、各担当課によるABC評価を記載してあります。ABCの評価の基準ですが、各ページ右下に表記してございますが、文化的側面からみて、Aが「より充実を図れた」、Bが「充実を図れた」、Cが「充実を図れなかった」とし、予定

どおり実施できた場合は標準のBとしております。また、3ページ目をご覧ください。左側の欄外に二重丸が記してある事業は、23年度からの重点項目に該当する事業となっております。

22年度の事業評価ですが、22年度は全体で61事業を実施し、ABC評価では、A評価が18事業、全体の29%、B評価が40事業、66%、C評価が3事業、5%となっております。総事業費の決算額合計は、約4億2,900万円でありました。

23年度は、全65事業を実施する予定としております。前年度の実施事業数よりも4つ増えまして、総事業費の予算額合計は約3億5,400万円であります。前年度の決算額合計と比べますと、約7,500万円の減となっております。年々総事業費は縮減傾向にありますが、厳しい財政状況の中、実施方法を工夫し、事業を展開していきたいと考えております。

次に、1ページに戻っていただきまして、基本施策の1から順に、23年度からの重点項目を中心に説明いたします。資料1「計画の概要」とあわせてご覧ください。

まず、基本施策1「文化芸術をはぐくむまちづくり」でございます。資料1「計画の概要」をご覧くださいと、(1)「文化芸術の創造と発信」では、右側の基本事業では、②の「国内外への発信力の強化」が重点項目となっております。これは、資料2をご覧くださいと、2ページの11番「シティセールスキャンペーン」が重点項目に該当する事業であります。このように、資料2の年次報告書の項目欄には、①や②などの表記のみですので、重点項目の種別につきましては、資料1と照らし合わせながらご覧ください。

2ページの11番「シティセールスキャンペーン」ですが、22年度は、日本橋のイベントスペースで、千葉市でとれた農産物、あるいは加工品の販売、千葉市芸術文化新人賞受賞者を起用したミニジャズコンサートを行うなど、庁内が連携して全国に向けたPR活動を展開しました。23年度については、詳細は未定ですが、千葉市外からの移住促進に資するイベントを実施する予定です。今後もメディア等の広報媒体を活用したPR方法を検討し、参加者・来訪者の参加・促進につなげてまいります。

次に、3ページからの(2)「まちづくりと文化の連携」では、①「地域住民を結びつける文化芸術活動の促進」を重点項目として位置付け、年次報告書では、3ページの1番から5ページの14番までが該当する事業であります。例えば、「各区の区民まつり」や13番「千葉の親子三代夏祭り」などにより、地域コミュニティの結びつきをさらに強めて、「顔の見える、安心・安全なまちづくり」のため、地域での文化芸術活動を促進しているところでございます。

そして、6ページの(3)「伝統文化の継承・発掘」では、①「伝統文化の理解促進」を重点項目として位置づけ、6ページの1番から7番までが該当する事業でございます。例えば、2番「伝統文化振興事業」では、本年度、「千葉わらい」を題材に、千葉大の学生が中心となって台本を作成し、ワークショップに参加した一般市民とともに、創作狂言の公演を行います。このように、地域に伝わる千葉独特の伝統文化を用いることで、文化芸術への関心を高め、次の世代に伝えていく取り組みを行ってまいります。基本施策1は以上です。

続きまして、7ページをお開き願います。基本施策2「文化芸術に親しむ市民の裾野の拡大」でございます。(1)「文化施設の魅力向上」では、③「文化芸術活動への参加促進」を重点項目として位置付けております。8ページをお開き願います。9番「オストメイト対応トイレの整備」でございますが、今年度、京葉銀行文化プラザと市民ギャラリーいなげの施設内の多目的トイレに、簡易型のオストメイト対応の設備を備え、施設のバリアフリーをさらに進めて、高齢者や障害者が文化芸術活動に参加しや

すい環境づくりを図ってまいります。

次に、同じく8ページの(2)「参加型・体験型活動の推進」におきましては、3つの項目を重点項目として、文化芸術活動への参加促進を図ってまいります。1つ目は、①「身近な鑑賞・体験の場の開拓」であり、8ページの1番から10ページの12番まで、該当するものが12事業あります。例えば、8ページ3番「小・中・特別支援学校鑑賞教育推進事業」では、市の美術館と学校が連携し、子どもたちが、美術館が借り上げたバスで来館し、ボランティアスタッフの説明を受けながら展覧会を鑑賞する機会を得ております。また、4番「小・中学校音楽鑑賞教室」においては、プロのオーケストラを学校に派遣して体育館でコンサートを行うなど、積極的なアウトリーチ活動を推進したことで、身近な鑑賞・体験の場を開拓しております。2つ目の重点項目は、③「ワークショップ形式等による体験型活動の促進」であり、13事業ございます。例えば、10ページの14番「文化ふれあい振興事業」では、23年度は、日本の伝統楽器である和太鼓と、若者に人気のあるストリートダンスを題材に、ワークショップと公演を行うなど、子どもたちが文化芸術をより身近に感じることができるよう体験型プログラムの充実を図り、事業を実施していきます。次に、3つ目の重点項目であります、④「発表の場の提供」に該当する事業は13事業ございます。例えば、10ページの16番「ベイサイドジャズ」では、22年度は千葉国体とのタイアップにより、JR海浜幕張駅前や、周辺の商業施設・ホテルを会場に、プロ・アマを含めて、今まで最も多い演奏者数となりました。また、ジャズボーカル講座やふれあい音楽クリニックなど、ワークショップ形式による体験とその成果を発表する公演も行いました。基本施策2は以上です。

続きまして、12ページをお開き願います。基本施策3「文化を創造する人材の育成」でございます。

(1)「子どもの文化芸術活動の充実」では、①「参加・体験事業の拡充」を重点項目とし、6事業が該当しています。例えば、先ほどご説明しました、12ページの2番「小・中・特別支援学校鑑賞教育推進事業」や、3番「小・中学校音楽鑑賞教室」など、学校教育と連携して、子どもたちが文化芸術について学び、触れる機会を提供することができました。また、6番「文化ふれあい振興事業」では和太鼓とストリートダンスを、また、13ページの7番「こども演劇教室・公演」では、舞台芸術の体験を通じて、文化芸術の楽しさを感じてもらうなど、文化芸術の分野の幅を広げまして、将来を担う子どもたちに対して、身近に触れる機会の充実を図っております。

また、14ページの(3)「文化芸術ボランティアの育成」では、②「ボランティア登録の一元化」を重点項目として、2事業が該当しています。6番「ちば生涯学習ボランティアセンター」では、多岐にわたるボランティアの方を活用しやすくするため、登録の一元化に取り組んでいます。登録者数が年々増加しており、市民のボランティアに対する関心の高まりを感じているところでございます。基本施策3は以上です。

続きまして、15ページをお開き願います。基本施策4「創造活動を支える場の確保」でございます。

(2)「既存施設活用の促進」におきまして、③「民間施設の活用の検討」、④「文化施設間の連携による利便性の向上」、⑤「生涯学習施設との連携」の3つを、重点項目と位置付けております。

まず、1つ目の重点項目である③「民間施設の活用の検討」では、文化芸術活動の場を、商店街の空き店舗などの民間施設にも目を向けて、市民にとってより身近な場に拡大させようというものです。今のところ該当する事業はございません。しかし、今年5月に千葉市と市内の大型小売店舗との間で包括提携協定を結び、「文化芸術活動の発表の場」として提供していただける可能性が出てきました。今回の

年次報告書には掲載しておりませんが、今後、実現に向けて取り組んで参りたいと思います。

次に、2つ目の重点項目「文化施設間の連携による利便性の向上」では、15ページの下から2つ目、3番「文化施設間のネットワーク化」の1事業が該当しています。今年度から5年間、文化センター、市民会館、美浜・若葉文化ホールの4館をひとつの事業体が一括して管理・運営することとなり、施設4館のネットワーク化が図られ、どの施設からも予約できる体制が整いました。今後も、市民にとって、より利用しやすい、身近な施設を目指してまいります。

次に、3つ目の重点項目⑤「生涯学習施設との連携」では、4番「生涯学習情報提供システムのまなびネットの運用・管理」が該当しています。同センターのHP上で、市美術館の展覧会の情報を入手でき、また、講座や教室などについても調べることができます。生涯学習センターも、市民の文化芸術活動への参加促進を支える施設となっています。基本施策4は以上です。

続きまして、16ページをお開き願います。16ページの基本施策5「文化芸術活動への支援」でございます。(2)「市民と行政の協働体制の確立」では、②「文化芸術活動への効果的な支援」を重点項目としています。例えば、2番「文化芸術活動支援事業」では、地域の文化芸術活動を効果的に支援し、文化団体やNPOの発展などに寄与できるよう、取り組んでおります。

次に、17ページの(3)「産・学・官の連携促進」においては、①「企業に対する情報提供の促進」を重点項目としておりまして、2番「文化情報誌あではは刊行」が該当しています。毎月1万部を、市内の飲食店やホテルなど約400か所に配布しており、地元企業に対して、文化芸術支援に関する情報提供に努め、若い世代や働き盛り世代が文化芸術活動に参加できるよう環境づくりを進めています。

ここで、訂正がございます。基本事業が②となっておりますが、①の誤りでございます。

説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

#### 【委員長（神野委員）】

ありがとうございました。千葉市が取り組んでいるものを全体として文化振興課で取りまとめて、市の文化事業を一覧にさせていただき、文化芸術振興計画の重点項目との関係でご説明いただきました。

この内容は非常に多岐にわたるものですし、担当課が文化振興課だけでなく、他のセクションが主体となって取り組んでいるものもありますので、細かいことはご回答いただけないかもしれませんが、全体的な枠組みの中で、この取り組みはどういう形で進められているのかなど、質問やご意見がありましたら、積極的にご発言いただければと思います。

#### 【田代委員】

お聞きしたいところは、基本施策の「文化芸術をはぐくむまちづくり」の(1)「文化芸術の創造と発信」、網かけが「国内外への発信力の強化」ということで、これは、2ページの11番、「シティセールスキャンペーン」がこれに該当するかと思います。国内外への発信力の強化ということでは、発信方法についてあまり記載がなく、どのようにPRするのか、もう少し記載があってもよいのではないのでしょうか。

#### 【事務局】

ここには、国内外への発信力を強化するとありますが、基本的な事業としてはこれで、それを具現化

したものがこのシティセールスキャンペーン事業ということで、発信方法については具体的な記載はしていないという資料の作り方になっています。

【松本委員】

自分は2年くらい前にシティセールスの委員もやっております、そのときも、シティセールスは、県外に出て千葉県のいいところをアピールしたり、イメージビデオを作って放映したり、そういう活動をしていたと思うんですね。「国内外」というと厳しいのかな、というのがありますが、そのときも、千葉市のいいところ、海や緑があり、幕張新都心のような近未来的なところもあり、そうやってひとつずつピックアップすると、自分も知らなかったようないいものがいろいろあるので、そういうものを、このキャンペーンでどんどんアピールしてくれるとさらにいいのではないかと思います。

【関委員】

私もシティセールス委員をやっていたのですが、国内外への発信というと、何を発信するのかよく分からないところで、千葉市をセールスすることと文化芸術を推進することは、果たして同じなのかという印象があるんですけども。これは、文化芸術の発信なのか、それとも、千葉市はいいところだよと売り込むことが発信なのか、というところなんです、その辺はどんな感じに考えていらっしゃるのでしょうか。

【事務局】

文化というものを大変幅広く捉えていまして、千葉市の魅力、それが文化だと捉えています。千葉市の魅力をセールスしていこうというのが、シティセールスの基本的な考え方です。

【委員長（神野委員）】

国内外への発信の中でシティセールスキャンペーンが挙げられているというのは、千葉市の魅力を発信する際に、千葉市はこれだけの文化芸術活動をしていて、それを千葉市の魅力としてアピールしていくという理解でよろしいでしょうか。

【事務局】

はい。

【富士崎委員】

私は東京に勤務している者として、ちょうどこのシティセールスキャンペーンのときに、八重洲のスペースに通りがかったのですが、どちらかというと農産物や特産品の物販中心という印象でした。2日間でしたが、千葉市は魅力の多いまちですので、継続的に情報発信をする機会をいただければありがたいと思います。確か昨日まで県立美術館で山下清展をやっていたと思いますが、私も会期中2回ほど行きましたが、県外からのお客さんもだいぶ多かったように思いますので、千葉市美術館でのイベントや京葉銀行文化プラザでのコンサートなども、東京での博物館、美術館、ホールなどを經由して情報提供していただければ、もっといろんな方に千葉にお見えただけて、経済

効果も出るのではないかと思います。

【事務局】

やはり、戦略的に、継続して、市外へ発信していくことが重要だと思いますので、これからも関係部局と連携しながら発信してまいりたいと思います。

【委員長（神野委員）】

今出てきた質問のいくつかは、千葉市からもっと発信していいのではないかとということだと思っ  
たんですね。シティセールスキャンペーンの中でも発信されていたとは思いますが、千葉には文化の  
魅力がすごくあって、それによって千葉に移り住んでほしいと明確に言えるようにアピールしても  
いいんじゃないかというということでもあるような気がします。この件について他にご意見は？

【能美委員】

アンケートの自由意見の中で、千葉市の文化と聞いて思い浮かぶものや文化施設、施策などを述  
べてもらう設問で、オオガハスとか千葉城とか、回答がけっこう挙げられている反面、思い浮かば  
ないという意見もたくさん見られました。千葉市には財産がいろいろありますので、これを継続性  
とからめて、千葉日報や千葉テレビなどで、こういった文化財をリストアップして、毎日連載して、  
千葉市にはこんなものがあるというのを広めていって、市民の方々に知ってもらうことはできない  
ものかなと思いました。例えば、市政だよりも利用してもいいかと思いますが、発行回数が少ない  
ので、やはりテレビや新聞の連載で常時目に触れてもらう、そういう工夫をされてはどうかと考  
えました。

【松本委員】

千葉日報は市内版とかいろいろあるので、今おっしゃった部分は、観光シーズンに合わせたりし  
て、いろいろ紹介させていただいて、つい最近では、テレビや映画の撮影地になった場所を、  
ドラマや映画とからめて紹介するというのをやりましたので、一応ご報告させていただきます。

【委員長（神野委員）】

他の項目でもよいので、何かありますでしょうか？

【能美委員】

ベイサイドジャズ千葉は、千葉市がスイスのモントルーとの姉妹都市ということで始まったのでし  
ょうか。

【事務局】

その関連もありますが、もともと千葉ジャズ協会、地元の方々から声がありまして、千葉市文化振興  
財団さんと一緒に立ち上げたというものでございます。スイスの方はモデルにはなっています。

【能美委員】

こういったジャズイベントは札幌とか他の自治体でもたくさんやっているの、やはり同じようなことをやるには差別化が必要だと思います。その辺は、モントルーとの関連性を見出して、色づけすると面白いと思いました。

【委員長（神野委員）】

他と比較して、何が特徴といえるかということでしょうね。

【事務局】

他市でも行っているところがありますが、ベイサイドジャズでは、市内の店舗や商業施設のご協力を得て、ひとつのチケットでいろいろなところでジャズが聴けるというジャズストリートというものをやっていて、これが特徴です。

【委員長（神野委員）】

コンサートホールだけでなく、街中いたるところで演奏されている日が設定されていて、千葉市内がジャズでにぎわうというイメージですね。

今、能美委員からご指摘があったように、確かに千葉市はいろいろ事業をやっているのですが、千葉と言ったときに、どうも顔がないということがあると思います。ひとつに絞ってしまうのは、それはそれで不幸なことです。多様性は確保しながらも、千葉をイメージしたときに思い浮かぶものがあればと感じます。文化は強いイメージが牽引していくというところがありますので、そこが千葉市の課題かという気がします。

【瀬崎委員】

小・中学校の音楽鑑賞会を学校にプロのオーケストラが訪問してやっているということですが、今はニューフィルオーケストラ千葉がなさっているのでしょうか。

【事務局】

はい、そうです。

【瀬崎委員】

いくつかのホールを一つの団体が事業主として管理するという取組みをなさっていると伺ったのですが、特に、クラシック音楽の場合、演奏する会場がとても重要で、音楽が選択科目になって、誰もが知っているものが少なくなっている中で、お子さんが初めて、小学校、中学校で触れるものが、できるだけ本物に近い状態で再現されたほうが、その文化の魅力が伝わると思うので、ホールでの演奏会にみなさんが足を運ぶほうが、オーケストラの本当のすばらしさを実感できるのではないかという部分があります。



【廣崎委員】

関連してですが、美浜のマンスリークラシックも、時間帯とか、対象が子ども向きではないですね。ホールが空いている時間にやっているということかもしれませんが、小学生やもっと下のお子さんが、クラシックとか、本物に触れる機会がホールではほとんどないです。小学生禁止、幼稚園児禁止とか。私どもフォーエヴァーでは、6月、12月にクラシックコンサートをやっているのですが、1歳でも2歳でも、保護者が責任を持ってばどなたでも来て頂けます。ただ、お子さんが騒いだときは、保護者の責任で出てください、というご案内をすると、すごく喜ばれますね。小さい頃からクラシックに触れるためには、瀬崎委員がおっしゃったように、ホールに行って、誰でも聴けるような環境を作っていたらいいと思います。

【関委員】

瀬崎さん、ホールといってもいろいろあると思いますが、どのホールがいいですか。

【瀬崎委員】

市内のホールで申し上げますと、オーケストラを演奏するのであれば、京葉銀行文化プラザが一番よいと思います。駅から近いということもありますが、何よりクラシックの響きを考えて作られているので、東京のホールに負けない本格的な文化施設と胸を張って言えるホールだと思います。

【関委員】

もしそういうことが実現できるのであれば、専門家の人が入って、どういうところでやったらいいかということを考えないと、あまりいいことにはならない気がするので、「こういうコンサートをやりたいけど、どこでやったらいいだろうか」というような相談を受けたときに、専門家の意見を取り入れる形を取れたらいいと思うのですが。

【委員長（神野委員）】

整理しますと、最初の意見は、クラシック音楽をはじめとする体験授業というものが、体育館で行われるようなことも、意味のないことではないけれども、施設が十分ではない中で、本当に魅力が伝わるかということ、難しい面もある。千葉市にはすばらしい音楽ホールがあるのだから、そこでそういう体験をできる機会を充実させていくというのも望ましいのではないかというのがひとつ。

廣崎委員のほうからは、音楽体験というときに、学校の教育課程で行われるもの以外に、幼い子どもたちを親が連れていく場合に、クラシック音楽のように、特にハイアートと言われるようなものは、迷惑をかけるのではないかと気後れされる方が多いので、敷居を下げて、別の意味でバリアフリーにしていけるということも、千葉市から発信していてもいいのではないかという提案ですね。

関委員のご発言は、それぞれのホールにはそれぞれの魅力、適性があるので、事業の計画を立てていく中で、実演家側からも発信していけたらいいということですよ。

【関委員】

先ほどの資料の事業概要の中に「プロの音楽家」と書かれているところですが、なぜ具体名を出さな

いのか不思議なんですけれども、それはなぜなのでしょう。個人名は出せないとか、そういうことがあるのでしょうか。

【事務局】

特に意図はございません。

【関委員】

アーティストサイドの人間としては、あくまでも個人や団体によってずいぶん違うと思うので、ひとまとめにするよりは、プロの演奏家、誰だれ、としたほうがPRにはなると思います。逆にその辺をぼかしてしまうと、すごくあいまいな感じがしてしまって。アーティストというのは、個人なり団体なりで活動していますから、そのレベルはいろんな人たちが判断するのですが、できるだけ個人名を出していただけると、こういう人たちがやっているのか、みたいなことを思うと思います。

【委員長（神野委員）】

演奏家は非常に数多くいて、その中で演奏を依頼してコンサート等していただくわけですが、その選択もメッセージだということですね。これも千葉市の課題になっていくと思うのですが、行政は基本的に平等ということを重視しますが、文化芸術は、ある種、突出したものを求めていくところがあるので、まんべんなくバランスよくというのも行政の大事な考え方ではありますが、そうすると総花的になってしまうので、関委員のご意見は、そこに何か配慮があるのであれば、出してしまった方がメッセージになりますよ、ということですね。千葉市がどういう文化芸術を押しだしていくのか、ということが課題になってくると思います。

【事務局】

特に他意はないと申し上げましたが、このような全体の報告書としてまとめる場合には、「プロの芸術家」とまとめることもありますし、個々の実績を外にはっきりと伝える場合には、実際の芸術家のお名前を出したほうが、そのような形で前向きに取り組んでいるという我々の真意もしっかり伝わりますので、その辺を考えながらやっております。

【瀬崎委員】

個人的な意見なんですけれども、経費が削減されていると伺ったのですが、その中で、これらをどうやってすべて実行していくか、難しい状況だと思いますが、例えば、美術館の中で室内楽を聴く機会を作ったり、身近にもいろいろなジャンルの芸術家がたくさんいるということを経験できる場を作ったり。ある分野に興味があったときに、それ以外の文化とタイアップして一緒に触れる機会になれば、少し経費が抑えられるのかなと思うのですが。その場合、クラシックは会場がとても大切だと言いましたが、文化と文化が触れ合って相互に高め合う作用もあると思うので、施設と企画を組み合わせたらどうかと思います。

例えば、最近、フランスの音楽祭、「熱狂の日」というのが日本にやってきていて、何日間か、一日中、1時間ごとに音楽会をするというもので、作曲家など、その年に何かモチーフを決めてイベントが開催

されているのですが、そういうのを、実際に、美浜の民間の音楽好きの方が企画して去年から始まっているのですが、そういうことを官のほうでも企画していただけたら、子どもだけでなく働いている人へのメッセージにもなって、文化を発信しているという市のイメージアップにつながるというか。フランスから来た音楽祭なのですが、インターネットを通してあつという間に日本全国に広まって。だいたい、クラシック音楽というと、年齢層の高い方が多くて、インターネットは効果を発揮しないような、実際にチラシとチケットが手元にないと会場に行かない人が多い中で、違う世代の方が気軽に行ける場所というか、逆に今まではまっていた人たちも失望させない内容で実現できているというのは、とてもいいアイデアだと思うので、今年からの「身近な文化芸術活動」にはぴったりの企画ではないかと思えます。

#### 【事務局】

今は、きっかけづくりとか裾野を広げるとかいうことは非常にいいことだと思います。千葉市では、ベイサイドジャズで、プラネタリウムの中でジャズを演奏して、プラネタリウムを見に来た人に、違うものを知っていただく機会として手掛けているものもございますが、まだ一握りなので、できるだけそういう場をつくって、いろいろな体験をしていただくことが必要だと思いますので、またご指導いただければと思います。

#### 【富士崎委員】

これから予算の面で難しいと思いますが、私は民間企業に勤めているので、そういう事業をうまく市場化していけるような形を考えていただければと思います。瀬崎委員さんがおっしゃったように、私も美浜区民で、3日間くらいにわたった音楽イベントに参加させていただきましたけれども、通常は2時間くらいのプログラムなのですが、それを短くして、価格も安くして、新人で演奏の機会がほしい方や今まで生で触れる機会がなかった人たちがうまくマッチングしていくようなイベントだったと思います。市場化をうまくリードしていただくような企画をしていただけると嬉しいと思います。

#### 【委員長（神野委員）】

裾野を広げるという意味では大変重要なお話で、経済的な面で継続性が確保できるように、また、市民が気軽に参加できるという面でも充実させてほしいということですね。もう一つは、今まではこういうメディアではこういうジャンルが紹介されることがなかったということも、新しく開拓するようなことをやっていただければ。例えば先ほどのインターネットとかですね。美術館やコンサートホールに足を運ぶ人は、高齢化が進んでいて、次のファン層を開拓するのがなかなかうまくいっていない。これには、受け手の問題だけではなく、実演者、企画者側も、これまでの枠の中でしか考えられない中での先細りの状況があると思いますので、文化振興課も当事者ではありませんが、ある種外野的立場から意見を言っていただけるとも思います。私たちも声を上げていって、今まで使っていなかったチャンネルも使いながら、市民に届けていく仕組み作りが必要になってくると思います。

#### 【廣崎委員】

プロの方がいらっしゃるのをお聞きしたいのですが。千葉市の中で、芸術のプロの方の講師リストが

あれば便利かと思ったのですが、それで、小・中学校でこういうことをやりたいので来てほしいときに、リストを見てお願いできる、それがボランティアか有料かは別として、プロの方はそういうものに登録することに抵抗があるのかどうか、伺ってみたいのですが。

【瀬崎委員】

私は喜んで。実際、他の県ではご縁をいただいてやっています。学校にも指導に行っておりますし。千葉市にはクラシック音楽を学んでいるお子さんも、活躍されている演奏家もたくさんいらっしゃるのに、横のつながりがなく、千葉市在住同士でつながりが広がっていく機会がないので、それを千葉市で企画してくれたら、もっといろいろなアイデアが出てくるのではないかと思います。

【関委員】

私も登録することには何の問題もないんですけども、ただ、アーティストなので、やはり作品を見てもらいたいというのがあります。できる限り、作品を見ていただいたうえで、声をかけていただきたいですね。登録するのが嫌という人はあまりいないと思うんですが、そのもの自体が、ここに入るとダサいなという雰囲気になるとまずいですね。たとえばあまり実績のない人たちに偏ってしまったりすると、駄目ですよ。最初の立ち上げのときに、いい感じにいけばいいと思うんですけど。

【委員長（神野委員）】

千葉市でもアーティストバンクをやっていますよね？

【事務局】

文化振興財団でやっています。

【石丸委員】

市内の舞台芸術家を中心としたアーティストバンク制度というものを文化振興財団のホームページで立ち上げています。PRが不足しているということであればそうかもしれませんが、今、47団体・個人が登録されていまして、最近、そこに登録されている人を紹介してくれないか、という活用の場も徐々に増えてきています。さらに需要と供給の双方が増えていけばと思っています。

【委員長（神野委員）】

登録にはどのような手続きがありますか？

【石丸委員】

登録書を出していただいて、審査がございます。個人情報もありますので、公開部分、非公開部分ありますけれども。審査をさせていただいて、この人なら大丈夫ということになれば、ホームページにアップします。それで、コンサートの企画などしている方が、こういう人はいないかということで私どものほうへお電話をいただき、私どもが斡旋する形です。新人賞の方は結構登録していただいていて、先日も、新人賞のバイオリンの大塚さんに美術館のさや堂ホールで演奏していただいたり、先ほどのプラ

ネタリウムですとか、モノレールですとか、いろいろな機会で行っていただいています。

【委員長（神野委員）】

すでに取り組みは始まっているということなので、それを目に見えるようにしていただければ、より魅力的なものになっていくということでしょうね。

【瀬崎委員】

クラシック音楽に関してしか申し上げられないのですが、今、人生が長くなって、プロではなくアマチュアで音楽を楽しんでいらっしゃる方はとても多くて、実は、千葉県はアマチュアオーケストラが最も多い県だそうです。ということは、音楽に時間を割いている方がとても多いということですがけれども、音楽会に足を運んで楽しむ方と、自分が演奏して余暇を楽しむ方がはっきり分かれてしまって、接点がないのが実情で、お仕事を時間がなかったり、自分のストレス発散が自分で演奏することだったりすると、演奏会に行くのとは違う楽しみをされているのかもしれませんが、身近にプロで活躍している人がこれだけいるということアピールしていく、逆にアマチュアの方のレベルアップにもつながると思いますし、その交流が図れる場を作っていったら素敵だなと思います。

【事務局】

今の瀬崎委員さんのご意見が一番分かりやすいけれど、一番難しい問題だと思います。音楽会に行く人と演奏して楽しむ人の交流の場ということですが、どのような接点がアイデアとしてあるか教えてくださいいただけますでしょうか。

【委員長（神野委員）】

千葉大の教育学部にいるという立場で、背景の補足をしますと、音楽でも美術でも、日本の教育の中では、演奏し、作ることばかりに比重が置かれていて、鑑賞する側の教育はほとんどなかったといつてよいと思います。最近、ここ7～8年でしょうか、美術では鑑賞教育に力を入れ始めているのですが、現場の先生方はそういう教育を受けてこなかったもので、それが変わるには20年、30年というスパンがかかってしまうと思うんですね。先生方の意識改革は時間がかかるので、自分がやるのが楽しくても、それが、その道でプロになっている方の奥深さへの理解や敬意につながっていかなければいけないのですが、今の教育活動はそこまでいっていない。演奏する楽しさ、作る面白さを強調するあまり、聴く側、観る側が育っていないというのが現状なので、そこをどうプロモートしていくかということですが、プロとプロでない方が接点を持つ中で、敬意が生まれたりするので、ボーダーをなくしていくという取り組みをもっとやっていくと、分厚い文化の層ができてくるのではないかと思います。

【田代委員】

前に軽井沢に行ったときに、食事の後、クラシックを聴く催しに参加したのですが、若い人から年配者まで幅の広い世代のアマチュアの人達が演奏しており、プロとは違うリラックスした中で、音楽を楽しむことができました。プロの高いレベルの演奏を聴くときは、生つば飲むのもためられるくらい緊張して構えて聴かなければならないんですが、音楽の楽しみには2つあるんだなと思いました。

あと、今のお話ですと、アマチュアの方達も第九を歌うとか、プロの先生に教わって自分のレベルを上げていきたいという感覚はすごくあって、確か千葉市でもやっていると思いますが、募集するとすぐ申込がいっぱいになってしまうと聞いたこともありますので、そういう機会をもっと増やしていくというのも一つの方法だし、文化芸術の裾野も広がっていくのかなと思ってお話しさせていただきました。

#### 【富士崎委員】

冒頭にも「千葉市ブランド」という言葉が出ていたかと思いますが、私も夏場にサマーフェスティバル、音楽祭みたいなのに行くと、松本市のように音楽で町おこしをしているケースがけっこうあるんですが、そういうところでは、公開レッスンをやったり、地元の学生さんが演奏したり、海外から有名なアーティストを呼んで集客をしていくという形で。これから生涯教育が重要になっていくと思うのですが、そういうイベントの中で千葉市ブランドが確立していくと、住民としては嬉しいなという感じがします。

#### 【委員長（神野委員）】

おそらく、ものすごく高級なものとしてありがたがるという時代は終わっていて、でもその凄さを分かるためにはそれなりの段階とか情報が必要になってくる。小さい頃から鑑賞機会を与えていったり、演奏者と直接触れ合う機会を作ったりしていくことによって、憧れたり面白さに気付いていく。そして、大人にとっても、高級なものと思ってしまうがゆえに距離をとってしまうというところもあるので、それを埋めていくような親しみを感じる魅力的なプログラムを行っていくということが、千葉市の魅力につながっていくというご提言だったかと思います。

他に、是非とも触れておきたいということがあればどうぞ。

#### 【廣崎委員】

14 ページですが、ボランティア登録の一元化というのがあって、ボランティアズカフェと生涯学習ボランティアセンターというのが両方出ているのですが、どういう一元化になっているのかがよく分からないものですから。ボランティアセンターのほうは、ずいぶん経費が落ちているけれど、それで一元化が達成されているというのは、どのようにできたのかなと思ひまして、ご説明いただければと思います。

#### 【事務局】

詳しいことは分かりかねますが、ボランティアセンターというのが、社会福祉協議会にも、生涯学習センターにもありまして、またNPOについては市民活動センターがありまして、そういうところの一元化の取り組みはすでにされているところがございます。色々な活動をされている方々がうまく活用されるように、また、各センターの間のマッチングがうまくいくようにしていくことが大切だと考えています。

#### 【関委員】

私は千葉市で演劇をやっている、千葉市の本町にアトリエを構えて、そこを創作活動や発表の場にし

たりしながら活動しているのですが、プロの方はたくさんいるのかもしれないけれど、実感としては少ない。そんな中、創作の場、発表の場が非常に少ないというのが挙げられると思うんですけども、例えば、私が劇場を使って公演をやろうと思っても、劇場というものが無いとか。ホールはありますけれども、それを埋めるのは大変です。15ページの学校空き教室の活用はどのような内容か教えてください。

#### 【事務局】

学校の空き教室の活用については、地域住民の方々が、地域でコミュニティ活動をされるときの活動拠点として使っていただくというものです。コミュニティ活動というのは、引きこもりの高齢者に出てきていただいて交流をする、健康体操をする、子育て中のお母さんの悩みを聞いてあげる、そのようなことです。

#### 【関委員】

もちろんそのような活動もいいとは思いますが、学校の空き教室だけではなくて商店街とかいろいろあると思いますが、なかなかアーティストが根付かないというのは、やはり創作し、発表する場が少ないということが挙げられると思うので、この中では学校の空き教室というのが何か可能性があるのかなと思って伺いました。

#### 【事務局】

その下の項目に、アーティストインキュベートというのがあります。空き教室を芸術家に、創作活動と発表の場として数か月にわたってお貸ししようというもので、学校の統合で廃校となった花見川第5小学校で数年前に計画したのですが、今は財政状況がひっ迫していることによって耐震工事などが止まっています、アーティストインキュベート自体も止まっていますが、そういうものを活用していただければと思っています。

#### 【委員長（神野委員）】

アーティストインキュベートについては、もともと積極的にやってほしいと言ったのは私です。花見川第5小を見に行くと、私のほうからは、アーティストのアトリエとワークショップスタジオみたいなものとダンススタジオみたいなものを作って、1年更新で貸せるような運営にして、義務付けはしないけれど、千葉市内に住んでいただいて、千葉市内のどこかで発表もしてもらおう、というのを組み合わせると、そこで住んで制作して発表するという循環ができていくのではないかとことを申しあげました。残念ながら、財政難でストップしている事業ですが、是非とも実現してほしいと思います。

東北の震災では、学校が大きな役割を果たしたということが記憶にあると思いますが、避難所を運営するというのは学校の先生の仕事ではないんですが、みなさん引き受けて献身的にやっていたわけです。それは、今まで私たちは、無駄を切りつめていって、統合して廃校は更地にして売ってしまえばいいという考えだったわけですが、積極的な意味での無駄があることによって人々が活かされている状況が現実にあったので、廃校を、地域に住んでいる人だけでなく、他から人がやってきて、そこを手掛かりにして新たな生き方を見つけていく場所としてさらに発展させていくということも非常に重要な

ってきていると思います。昨年中止になって、3月にこういうことがありましたので、また意味付けも変わってきているんじゃないかと思いますので、是非とも再度チャレンジしていただきたいという気がしています。

#### 【事務局】

アーティストインキュベートについては「休止」ですので、財政が上向いてくれば再開する事業だと考えています。

#### 【能美委員】

学校の空き教室も大きな問題だと思いますが、個人的に非常に気になることがあります。私は若葉区に住んでいますが、市営住宅の老朽化が進んでいて、住人が非常に少なくなっていることに危機感を覚えます。例えば、建築家やアーティストに再生プロジェクトに関わってもらって、アーティストの方に安い家賃で団地に住んで団地の壁画を描いてもらうとか、見た目も楽しいものを作ってもらうなどしてまちづくりを進めるとともに、安い家賃で市営住宅に住んでもらうなどすると、若い芸術家の方とか、喜んで来てくれるのではないのでしょうか。例えば、フランスのリヨンというところで、市営住宅の団地の壁画が町の名物、ひとつの文化遺産となっています。千葉市も市営住宅がいっぱいあると思うので、若い建築家やアーティストに来てもらえたらと考えています。

まちづくりについては、文化振興課だけでなく、都市計画課とか他の部署も関わっていて、横の連携が難しいと思いますが、連携して、若い人の考え方を取り入れて、例えば市営住宅に住みながら、近くの小学校に出かけて、子どもたちとワークショップをしてもらうとか、そういうギブ・アンド・テイクのような関係を築いていったらいいなと思っております。

#### 【委員長（神野委員）】

やはり、まちづくり、まちの再生を考える上で、今までのやり方とは違うアイデアを活かしながら進めていくのが、明るい千葉市を拓いていくのではないのでしょうか。私が知っている例では、ロンドンの治安が悪くなってしまった地域に、アーティストたちにほとんど無料で住まわせると、アーティストたちは自分たちの環境を勝手によくしていくわけです。それによって、その地域が文化的になっていく。そして、その地域は移民が多くて教育的な問題を抱えているのですが、アーティストたちはただで住まわせてもらっているかわりに、学校の教育活動で協力する。そうすると、地域に特性が生まれて、競争力が出てくる。そこに住みたいというふうに思われていく。そういう力もあるわけです。

他にご意見はありますか。

それでは、議題1はここまでとして、議題2「千葉市文化施設等に係る市民ニーズ・利用実態調査」に移ってもよろしいでしょうか。昨年度実施した調査の結果について、事務局からご報告いただきます。

#### 【事務局】

それでは、お手元の資料3「千葉市文化施設等の市民ニーズ・利用実態調査報告書」本編の1ページをご覧ください。本調査は、昨年12月に、無作為抽出した20歳以上の市民3,000人にアンケートを送り、38.5%に当たる1,155人から郵送回収をし、また、昨年12月から今年2月の間に



は、文化施設利用者1, 235人に対する対面調査を行いまして、回答を得たものであります。

調査結果としましては、まず、平成20年調査と同様、千葉市を「文化的なまち」と思っている人は2割未満であり、約6割の人が文化的なまちとは「思わない」と回答しています。そして、「文化的なまちという言葉から何をイメージするか」との問いに対しては、「歴史があり、伝統文化が受け継がれているまち」という項目が突出して多く回答されています。また、千葉市が文化的なまちと思っている人は少ないですが、9割以上の方が、何らかの文化芸術活動に対して興味を持っており、中でも「音楽」「美術」「映像」などの関心が高くなっています。

一方、「文化芸術活動への興味・関心を高める施策」については、「学校の課外学習などで、子どもが文化芸術活動を体験できる機会を増やす」が最も多く、「千葉市が今後力を入れるべき施策」については、「子どもの文化芸術活動の充実」や「まちづくりと文化の連携」が上位にあります。

このことから、「文化振興を通じたまちづくり」に向けてイメージ構築していくことが重要であり、そのためには、子どもの早い段階から文化芸術に親しむ機会を増やし、興味・関心を高めることが、裾野の拡大へつながっていくものと考えられます。例えば、これまで実施した事業としましては、神楽・お囃子などの郷土芸能を通じて、ふるさと意識の高揚と郷土芸能への興味・関心を育てた「ふるさと教室」や、市民団体が主体となって、公募出演者とともにおペラ公演を実施し、市民に鑑賞の機会を提供した「千葉市民オペラ公演」などがあります。

現在、千葉市は「脱・財政危機宣言」を発し、あらゆる収入確保策と支出の見直しを徹底し、着実に財政再建を進めているところであります。この厳しい財政状況の中、いかに創意工夫しながら、バランスの取れた事業展開をしていくか考えております。例えば、今回の調査結果におきましても、最も関心の高い「音楽」の分野ではポップスが一番高く、また、前議会においても「オペラに力を入れてはどうか」という意見も出ており、同じ「音楽」の分野でも幅広くあります。つきましては、このような調査結果を踏まえまして、今後どのように本計画に反映していけばよいか、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思っております。

#### 【委員長（神野委員）】

ありがとうございました。今のご報告で一番印象的なのは、文化的なまちと市民自身が認めていない現状がある。けれども、重要だと考えているのも事実で、子どものころから親しむことが大事だという意見や伝統的なものに触れることが重要だと感じているということが分かります。

この内容について質問やご意見があればお願いします。

#### 【能美委員】

千葉市ではいろいろ試みもされているし、施設もたくさんあるけれど、市民の方が文化的でないと思っているというのは、やはり身近にあるものに気付いていないということがあると思います。広報の難しさはあると思いますが、広報は点でやるのではなく、線、面でつなげていくというのが重要だと思います。

ひとつの方法として、30ページに「文化財マップの利用希望」ということで、利用したい方が約6割いらっしゃいます。例えば、稲毛では、浅間神社があって松林があって、夏は灯籠祭りみたいなことをやっていると思います。神谷伝兵衛稲毛別荘の市民ギャラリー・いなげもあります。海岸のほうへい

くと、こじま公園というお子さんの遊び場として親しまれているところがあります。もっと海のほうへ行くと、花の美術館もあります。稲毛でもこれだけ文化財があって、つなげると魅力的な散歩コースになると思います。その中にはサーファーの集う素敵なカフェもあるかと思いますが、まずそれらをリストアップして見える化して、千葉市にこれほどいろいろ財産があるということを周知することが重要だと思います。最初にお話したように、千葉日報さんなどにがんばっていただいて、露出させていただいて、どこが素敵と思うか市民に人気投票をしたり、そのマップを作るということもあるかと思いますが。そのように、身近にあるものに気がついてもらうということが大切ではないかと思っております。

#### 【事務局】

以前に千葉市の散策コースを作って紹介したこともあります。更新していないというところもありますので、今後検討させていただきたいと思います。

#### 【委員長（神野委員）】

私の知っている例では、市民ギャラリー・いなげで去年から館長をされている林さんは、もともと美術の先生で、校長先生もされていて、千葉県造形教育研究会の会長もなさった方ですが、魅力的な施設なのに市民にあまり知られていないのはもったいないということで、とても魅力的な周辺散策マップを自ら描いて作成しています。これは、ギャラリーに行くともらえるのですが、ああいうものが、徐々に始まっているのですね。周辺にはマンションもたくさんあるけれど、あまり知られていないと思うんですね。そういう事例があるわけなので、ここにいる委員の方々もそれぞれ発信していただいて、市にはそれをまとめて見える形にさせていただくということでしょうね。

#### 【瀬崎委員】

利用したことのある文化施設の中には、音楽に使うホールもあれば、博物館や美術館も入っているかと思いますが、事業主がひとつに統一されているということもあったかと思いますが、このホールでは、こういうことが楽しめますよと、ホールの魅力を宣伝するようなことをサイトや冊子でなさったら、興味のある人が目にとめるようになると思います。駅前の市の掲示板などを見ても、私は演奏家たちを知っているのですが、この人たちががんばっているというのが分かりますが、そういうのは分かる人にしか分からなくて、他の人はすり抜けてしまうというのがあると思うので、もう少しお洒落に、というか。「あでるは」も、普通の市民が生活の中で目にするかということ、そうでもなかったりして、すごい部数刷られていると後で知って驚くのですが、私もインタビューを受けるまであまり知りませんでした。

#### 【廣崎委員】

以前に千葉市で、1時間半くらいで回れる文化財などの散策マップが20通りできていまして、生涯学習センターにも置いてあって、歴史好きの方はそれを持って歩いていらっやいました。ただ、更新されていないので古いままのものなのだと思います。

公民館などでも、歴史散策の好きなグループが、幕張の地域活性のための地図を作ったり、稲毛の地図を作っていたりというのはみなさんなさっていて、あと、千葉市の要覧か何かで、こういう充実した施設がありますよ、というのがありますが、資料としてはいろいろあるのに、発信がうまくいって

ないように思います。広報活動をどうやってうまくやっていくか。インターネット上で見られるようにして、地図もダウンロードできて持ち歩けるようになるとか、そういう広報活動が充実していけば、もっといろんなことが可能になると思いました。

【委員長（神野委員）】

これは、観光のセクションと文化の情報をお持ちの文化振興課との連携を深めていけば、うまく発信できる仕組み作りができそうなのではないでしょうか。

【事務局】

そうですね。それぞれ持っている情報をうまく生かし切れていない面があります。どこが音頭を取るかということですが、市民のみなさんが求めているものがあるわけですから、縦割りの枠を取り払ってやっていかなければいけないと思っています。

それから、先ほどの瀬崎委員のご意見ですが、生活の中にうまく溶け込ませるように情報を発信させていくというのは非常に難しいところです。

ホームページなど、いろいろな形で市民のみなさんに届ける媒体が用意されているので、それをいかにうまく使うか。工夫次第では、文化芸術をもっと身近に感じられるような社会ができてくるのだと思いますので、少し考えさせていただきたいと思います。

【富士崎委員】

私は東京から千葉市に越してきたのですが、私が住んでいた東京の目黒区と比べても、千葉市は住んでみるととても文化的なまちだと痛感しています。県立美術館や市の美術館、シューボックスの立派なホールもあって、文化的なまちだと思っています。でも、やはり文化的なまちというイメージにつながらない。例えば、横浜市は文化的なまちというイメージがありますが、千葉市も決して負けてはいないと思うのですけれども、横浜市が文化的に見えるというのは、横浜市外から歴史的な建築物や旧跡などを見に多くの人々が訪れるということがありますよね。住んでいる市民にとっては、外から人が訪れることによる再発見もあると思うので、市外からの誘致という点からも、千葉市のポテンシャルを活かして、ブランドを作っていたいただければと思います。

【委員長（神野委員）】

横浜といえば、「文化創造都市・横浜」というキャッチコピーで、文化を軸にして発展していくというストーリーを作って、再開発などをやっていると思います。千葉市にも文化財などがあるわけけれども、顔が見えないという状況の中で、文化的と見ていただけていない現実があると思います。そこで、千葉市に顔を与えたとしたらどんなアイディアがあるか、ここで何か決めるということではないのですが、どのようなジャンルに力を入れたらいいとか、こういう形で文化の運動をやるといいとか、皆さんから広くご意見をいただけたらと思います。

【瀬崎委員】

千葉にお住まいの方は、東京で働いている方が多いと思うんですね。東京に近いという地の利はある

けれど、東京よりは緑が多く、海もあり、子育てしやすいという利点があります。千葉市は、千葉県の中でも、子育てしている若い世代、働いているお父さん世代が多い地域だと思いますので、それを考えると、古い文化財などいろいろあるということでしたが、それよりむしろ新しい住みやすいまちというアピールをしていったら、敷居が高くないまち、過ごしやすい場所ということで、生活の中に、文化的なものが当たり前にあるというイメージで、例えばですが、オーケストラを雇うのはお金もかかると思いますが、もう少し少人数の、独奏からアンサンブルや室内楽のような、お互いが会話できるくらい接することができる環境を作っていけると千葉市の魅力がもっと増すと私は思います。

#### 【関委員】

僕も住んで長いので、顔がないまちというイメージの中で生きているのですが、千葉市にはいいものいろいろあるけれど、といて、すごくいいものがあるかということ、そこは二の足を踏んでしまうようなところがあって。いいものがあるけれど、あまりいい目に遭っていないという実感があります。アーティスト側からは、例えば「愛のあるまち」とか、そういう敢えて抽象的なイメージから顔を作っていたらいいのかなと。例えば、いいテーマ曲とかがあればいいなとか、そしてそれが顔になってくるといいなことを思います。

#### 【田代委員】

私も千葉と言ったら、どちらかというと近未来的なまちなのではないかなと。金沢、京都、横浜のような、いわゆる歴史のあるまちというよりは、いろんな商工会議所の人と話したりするんですけど、千葉が一番、近未来、モノレールが走っていて、海があってビルがあって、ごちゃごちゃしているけれど、活力があって勢いがあるんじゃないかという、実はそれが千葉なんじゃないかなと。最近、アニメーションなどで千葉がよく取り上げられていて、モノレールに乗って通っている元気な高校生がいるとか、そういうイメージが強いんだろうなと思っています。

この調査結果を見たときに、回答している人の年齢層が、70代とか60代、50代、40代。そして、30代、20代、10代はほとんどいないものですから、年配者がほしいものとちょっと乖離しているのかなと。Aクラスの何かを持っているわけじゃないけど、これからどんどん変わっていくよというのが千葉の魅力というかイメージじゃないかなと思います。

#### 【早川委員】

いろいろなご意見が出たけれども、千葉の顔だとか売りだとか、そんなことは考える必要ないですよ。みなさんも赤ちゃんの頃から顔が変わってきているでしょう。ずっと勉強していると賢そうな顔になってくる。まちも同じだと私は思います。

私は文化連盟という11団体10分野の集まった団体の会長なのですが、それぞれの分野で毎日稽古して、そのグループの中で交流を図っている。実はそういう活動は、千葉市にはいっぱいあるんですよ。ところが、残念ながら新人が入ってこないから、どんどん高齢化していく。だから、そのあり方についてもうんと議論しなきゃいけない。というのは、バイオリンやる人はバイオリンなんですね。バイオリンと三味線はなかなか一緒にならない。ですから、一昨年から市民芸術祭の開幕式典には全部の団体が集まってお酒飲もうよとか、そういうこともやっていて、それぞれの分野は違っても交流が図れる

ようにと工夫しています。

もうひとつ、分からないのは、若い人をどうやって呼び込んでいったらよいのか。というのは、親分がいると、権限をはずさないの、系列ができてしまって、これを打ち崩すのは至難の業なんですね。こうなったら、新しいグループを作って入れていかないといけないと思うんですけども。

もとに戻りますと、先ほどの山下清展、伊藤若冲展、相当入っていましたね。いいものがあれば必ず来るんですよ。顔とかは自然にできてくると思いますから、みなさんもそれぞれの分野で積み重ねるといふことに力を入れたほうがいいように僕は思います。神野委員長がやっているまちづくり。汚れたまちには人は住みませんから、いいまちにいい人が住みますから。そういうことを総合的に考えていかないと、いつまでたっても文化的にはならないと思いますね。雑感として私はそう思います。

#### 【委員長（神野委員）】

顔を作って、こういう町にもってこうというものではないと思います。けれども、例えば、山下清展は事業としては成功しているけれども、あれはあそこの学芸員がやったものではないわけです。よその企画会社がやったものを、どこかが買ってやっていくというのでは、おそらく地域の文化力は上がっていかない。それに対して、若冲展は、千葉市美術館の学芸員の自主企画として開催している。そこは千葉市の見識だと思いますが、学芸部門をきっちり厚みを持って運営している。その成果が出ていて、やはりそれは千葉市のアイデンティティーとなりうる。早川委員に反対しているわけではなくて、半分正しくて、半分異論もあるかなと思います。

一方、若い世代がどうやってコミュニティに参加して文化の担い手として重要な役割を果たしていく環境をつくれるかという課題があります。とかく現代社会は禁止事項が多くて、学生たちと一緒にプロジェクトをしていて苦勞するのは、自分たちで何かを作れるという感覚がないんですね。ルールの中で、こういうことが期待されているのだろうという予定調和の枠組みでしか考えられない。これは日本の競争力を奪っている一番の要因だと思います。自分がどのように世界と向き合って、何がしたいのか。そういうふう育てていかないと、早川委員の世代が作ったものを食いつぶしていくようなところに私たちはいるように思います。

あなたたちにも何か新しいことができる、世界に何かつけ加えることができるんだよということを感じ覚的につかませるには、芸術には大きな可能性があると思っています。そういう意味では、今までの文化、ジャンルとして、クラシック音楽とか長唄とか、いろいろありますが、若い人たちが何を表現したいのを見ながら、そういうことに目を向けていかなければと思います。任せるととんでもないことをするのはないかと禁止事項を増やしてしまうけれど、ある程度の緩さがないと、文化は生まれてこない。そういうことも含めて、若い人が文化発信できる場づくりが必要かなという気はします。

他に何かあれば。

#### 【瀬崎委員】

ボランティアというのがありましたが、私も宮城には足を運んで演奏をさせていただいたのですが、千葉市の方がボランティアに興味があれば、千葉県の旭市や浦安市などに行くとか、物資が揃ってきからこの先、音楽による心のケアは重要だと思うので、そういう意味で、千葉市から文化を発信するというアイディアは何かお持ちでしょうか。他の市の文化振興財団と協力して企画していくということとは

可能でしょうか。

【事務局】

文化芸術が被災地の人の心の支えになっているのは確かでございます。いろんな形でボランティアの方が被災地に赴いて活動をしています。すぐにやりますとお答えはできませんが、まったくできないというわけではありませんので、被災地からそのような要望があつて、市の中で被災地へ赴きたいという人がいれば、そこをつないでいくことはしたいと思います。

【廣崎委員】

私はNPOをやっております、旭市に5月2日に伺ったら、旭はとても恵まれていて、4つの避難所のスケジュールがいっぱいだったので、丁重に断られました。他の活動のボランティアも間に合っていますということでした。6月に伺ったときも、東総文化会館も少し被害があつたようですが、もう再開されて、演奏活動もできるようになっていて、旭市はもう避難所がなくて、みなさん仮設などに移られていて、今のところそういうボランティア活動はいらぬというお話だったのですが、連携できるということはすばらしいことだと思います。

【瀬崎委員】

補足で、浦安の液状化までいなくても、実際、美浜では、地面がずれたままだつたり、家が傾いたり、長い間トイレが使えなかつたり、いろいろ御苦労があつたと思うので、そのケアとして、募金活動で演奏会を企画するとか、被災者の方々に無料で演奏会や演劇を楽しんでいただくとか、そういう企画を市の方ですというのは、文化を発信している市というアピールにつながるのではないかと思います。

【事務局】

今回の震災では、廣崎委員のNPOフォーエヴァーがチャリティーコンサートをおやりになり、千葉市に避難してこられた方々をお招きしました。今回、このような活動は多く見られまして、みなさんの活動の強さを実感しました。

【委員長（神野委員）】

さまざまな考え方があると思いますが、そういう活動を通して、文化に力を入れているということを発信していくことが重要だということですね。市や財団のネットワークを活かしてということは、すでにされている部分もあると思いますが、これからさらに議論されていくことなのではないでしょうか。

いかがでしょうか。

では、この調査報告書の内容についての検討はこのくらいにして、議題2を終えたいと思います。

議題3のその他について、事務局から何かございますか。

【事務局】

資料の一番下に、本計画に記載されている事業も含めて、各種イベントのチラシを置かせていただい

ております。その中に千葉市芸術文化新人賞のパンフレットもございます。8月末まで推薦を受け付けておりますので、よろしく願いいたします。

【委員長（神野委員）】

それでは、以上で議事は終わりました、事務局にお返しします。長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。

問い合わせ先 千葉市市民局生活文化部文化振興課  
TEL 043(245)5961  
FAX 043(245)5592